

研究・調査報告書

報告書番号	担当
374	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Altered gene expression in the spleen of adolescent rats following high ethanol concentration binge drinking. 若年ラットにおける高濃度エタノールの大量摂取後の脾臓の遺伝子発現変化	
執筆者	
Liu X, Mao X, Chang SL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Clin Exp Med. 2011;4(4):252-7.	
キーワード	
ラット、エタノール、脾臓、遺伝子発現	
要旨	
<p>アルコールは大量に摂取すると広範に免疫応答を抑制する免疫調節物質である。高濃度あるいは低濃度のアルコールで免疫応答が異なるかどうかについては不明である。本研究では、20%または52%エタノールを3日間、大量摂取(4.8g/kg/日)させた若年ラットで46遺伝子のプライマーを含むPCRアレイを用い、免疫組織である脾臓でのmRNA発現を調べた。この結果、52%エタノール摂取で20%よりも、IL-1β、IL-6、CCL2、GABA_A受容体α2サブユニットの発現が減少し、mGluR5、5-HT_{3A}受容体の発現が増加することが明らかになった。以上より、アルコールによって媒介される免疫への影響は部分的にエタノール濃度依存的であることがわかった。</p>	